

## ◆「山梨県産材の利用拡大の推進に関する協定」について◆

### 1 背景と目的

- 三菱地所グループでは、2008年よりCSR活動の一環として、NPO法人「えがおつなげて」と連携し、山梨県北杜市増富地区との交流を通して、都市と農山村それぞれが抱える問題の解決を目指し、「空と土プロジェクト」を推進している。
- 三菱地所ホーム株式会社では、2009年5月に土台、大引きを国産材に切り替え、構造用合板を含めると構造用部材の国産材使用比率が35%となっていた。そして2011年8月、山梨県産カラマツの間伐材や小径木を使ったFSC認証材によるLVLを梁に、また山梨県産材認証製品のI型ジョイストを2階床組材に標準採用することにより、国産材使用比率は45%に引き上がる見通しとなった。今後、その他の構造材へのヒノキ、カラマツの利用等により、構造用部材の国産材使用比率をさらに引き上げる予定である。
- このような中、国産材のなかでも山梨県産材の利用を広めていくためには、山梨県産材の価値を積極的にアピールしていくことが求められる。そして、山梨県産材のブランド力を高め、広くその価値を発信するためには、川上（生産地）から川下（供給・販売）までが連携して普及・PRに取り組むことが必要である。
- このことから本協定は、これらの事業活動と連携し、全国5位の森林率を誇る山梨県において間伐材など木材の有効利用、利用拡大を進め、山梨県内の森林の健全な利用・管理を推進するとともに、地球温暖化の防止や生物多様性の保全等に寄与することを目的として締結する。

### 2 協定の内容

山梨県、三菱地所株式会社、三菱地所ホーム株式会社及びえがおつなげての4者が、上記の目的を達成するため、次の事項について連携し協力する。

- (1) 山梨県産材の普及・啓発に関すること。
- (2) 山梨県産材の利用拡大に関すること。

### 3 山梨県の役割

- 山梨県産材の利用や普及啓発に関する助言や情報提供を行う。
- 三菱地所グループやNPO法人「えがおつなげて」が企画する自社関係ツアーなどを通じて、県産材の普及啓発につながるPR活動等への協力を行う。

### 4 今後想定される主な活動

上記2の協定の内容を実現していくための今後想定される主な活動は次のとおり。

#### ○山梨県産材の普及・啓発

- (1) 新聞、三菱地所ホームのパンフレット等を活用した、県産材利用拡大のための広報活動の実施
  - I型ジョイストやLVLなどの県産材製品使用事例のプレスリリース
  - ウッドマイレージ等の評価手法を用いたCO<sub>2</sub>削減効果の明示など、具体的に県産材利用の意義やメリットがわかるパンフレット等の作成
- (2) 首都圏の都市住民を対象とした森林施業体験活動、スタディツアー、セミナー、ワークショップ等の実施
  - 北杜市における間伐材利用による休憩小屋づくりの実施
  - 下刈や間伐などの森林施業体験学習の実施
  - 都市住民と地元林業関係者との交流会の開催

- ・ 住宅購入者等を対象とした森林・木材のスタディツアーの実施
- (3) 各種イベントにおける山梨県産材製品の展示
- ・ 県が運営するアンテナショップへの展示
  - ・ ジャパン建材フェアなど首都圏での建材フェア等への出展
  - ・ その他都心部で行われるマルシェ・フェア等のイベントでの展示

○利用の拡大

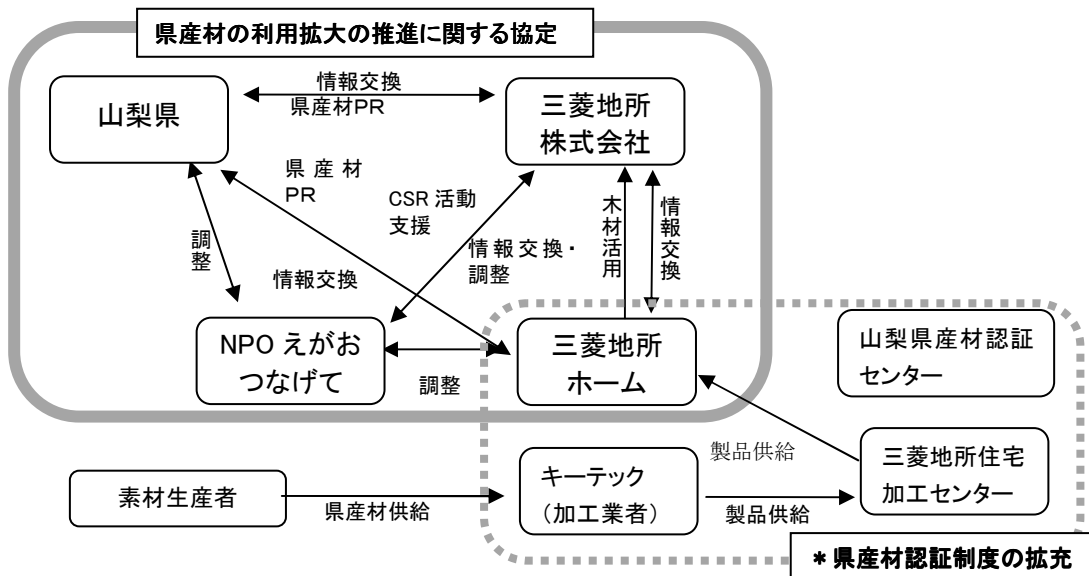
- (1) 三菱地所ホームの施工する住宅における山梨県産材の優先的な利用
- ・ その他住宅部材について県産材の使用への段階的な切り替え

5 これまでの活動内容と今後の予定

- 2010年 ・三菱地所グループのCSR活動「空と土プロジェクト」での地元間伐材利用による休憩小屋づくりツアーの実施。  
 ・三菱地所ホーム株式会社による、「長期優良住宅先導事業(国土交通省の事業)」スタディツアーの実施。
- 2011年 ・三菱地所ホームでは8月1日よりLVL及びI型ジョイストを山梨県産カラマツに切り替えを実施。(これにより国産材使用比率45%)  
 ・三菱地所ホームではその他構造材について山梨県産カラマツ、ヒノキ、スギの使用可否を検討。  
 ・三菱地所ホームで建築を検討されている方へ向けてスタディツアーの実施

6 実施体制

従来から三菱地所と「えがおつなげて」が増富地区で実施している「空と土プロジェクト」における間伐材利用推進の取り組みや、昨年県産材認証制度を拡充し(\*)、三菱地所ホームで県産材利用が開始されたことをベースに、下記のとおり山梨県も連携する中で、山梨県産材の利用の拡大に向けた取り組みを推進する。



\* 県産材認証制度の拡充：

県内で生産していない合板やLVL等の県外で生産される木材製品について、県産材の素材の使用量が50%を超える製品を「県産材認証製品」として認証できることとした。

## 都市と農山村をつなぐ『空と土プロジェクト』2008年～2010年活動実績

### 【『空と土プロジェクト』とは】

「都市と農山村が、お互いに元気になる社会」をめざし、三菱地所グループでは、CSR活動の一環として、都市と農山村をつなぐ『空と土プロジェクト』を2008年度から開始しました。山梨県北杜市で活動を行うNPO法人「えがおつなげて」と連携し、限界集落地域である北杜市増富地区との交流を通して、都市と農山村、それぞれが抱える問題を認識し、ともに支えあう持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな活動を行っています。

都市住民を対象にしたさまざまな体験ツアーを実施するほか、農作物・間伐材など地域資源と三菱地所グループの事業との連携プロジェクトを推進しています。

これまでに計20回のツアーを実施(延べ参加人数540人)。空土倶楽部登録者34名。

### 【2008年度主要活動】

#### (1)体験プログラムの実施

社員を対象にしたツアー3回実施。延べ参加人数82名

親子収穫体験・間伐体験・開墾体験。ツアー中、講義やグループディスカッションを実施。

#### (2)事業連携の検討開始

山梨県産木材使用に関するヒアリングなど開始(地所ホーム)。

### 【2009年度主要活動】

#### (1)体験プログラムの実施

ツアー10回実施、延べ参加人数233名。

開墾・田植え・種まき・草取り・収穫・加工まで一連の体験を、グループ社員、丸の内エリア就業者マンション居住者を対象に実施。

#### (2)耕作放棄地が棚田(2,400㎡)や畑(1,200㎡)として復活



#### (3)無農薬農作物の収穫と配布

【棚田】 玄米14俵、840キロ(白米630キロ)

【畑】 とうもろこし500本・じゃがいも・人参、さつまいもほか  
大豆70キロ → 内50キロで味噌づくり  
(200キロ:2010年秋完成)



- ・ 9/4 朝採りとうもろこし社員配布(コミュニケーションルーム)
- ・ 10/26~30(CSR推進月間) 空土米のお弁当販売(コミュニケーションルームほか) 1週間170食
- ・ 11/4~15「山梨の実り完熟フェア」(新丸ビル7階 musmus にて)

## 【2010 年度主要活動】

### (1)体験プログラムの充実(新しい体験メニューによるツアー参加者の拡大と地域との交流の深化)

ツアー7回実施、延べ参加人数225名。空土俱樂部イベント3回実施。

#### ■ コミュニティハウスづくりプロジェクト

間伐材(ヒノキ・カラマツ)を活用し、黒森集落「空土ファーム」の近くに、休憩スペースとなる簡易な建物を三菱地所ホームの協力により、2×4工法で製作中。

8月の空土俱樂部イベント、10月の体験ツアーなどにて床、壁まで製作。屋根部分は来年度予定。

8月のイベントは三菱地所労働組合からも組合員に呼びかけ

10月のコミュニティハウスづくりには、人事部の呼びかけで三菱地所内定者が2名参加。



#### ■ 酒米づくりプロジェクト

遊休農地を開墾した御門集落の棚田などにて無農薬で酒米を育て、山梨県内の蔵元に醸造を委託。

丸の内エリアの就業者などを対象に5月田植え&勉強会ツアー、10月稲刈り体験ツアーを実施。

酒米「ひとごち」は1等米と認定。2月に酒蔵見学ツアー実施。

日本酒は12月に仕込み、名称は純米酒「丸の内」(4合瓶で2150本)。

2月下旬より、丸の内エリアのレストラン等で提供、販売。



**(2) 事業連携の推進(各部・各社の協力によりプロジェクトを推進)**

**■ 農作物の利用**

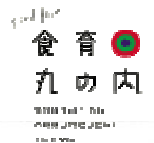
**①山梨県食材フェアへの協力(「おあんなって山梨」9/16~28、新丸ビル7階丸の内ハウス全体)**

山梨県商工会連合会を事務局とするイベントに、商業施設事業グループ、CSR推進部が協力。各店舗のシェフに協力いただき、山梨食材発掘ツアーを事前に実施。丸の内ハウス全9店舗でオリジナルメニューを開発、提供するとともに、イベント会場にてワインセミナーなどを開催。オープニングパーティには山梨県知事もご出席。



**②「食育丸の内」との連携**

○レストランシェフの体験ツアーへの参加、協力  
 酒米づくりツアー(5月・10月) 丸ビル 35階「銀座寿司幸」社長他が参加  
 マンションツアー(8月) 丸ビル 36階「アンティカ・オステリア デル・ポンテ」ステファノ料理長がゲストとして参加



○青空市場×「丸の内マルシェ」(10/22(金)23(土)開催)  
 空土ファームとして空土米・秋野菜や花豆等を販売



**■ 森林資源の活用**

**①三菱地所ホーム 構造用部材として山梨県産材の製品化推進**

山梨県	三菱地所ホーム
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県有林が多い(78%が森林、内46%が県有林)</li> <li>・資源量が豊富</li> <li>・県有林はFSC認証を取得</li> <li>・消費地である首都圏に近い</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品力、CSRの観点からの国産材活用促進 「純国産材2×4住宅」ブランドの実現を視野に</li> <li>・構造材の国産材比率35% → 当面目標70% 合板(道産カラマツ)、土台・大引き(宮崎産他ヒノキ)</li> <li>・国産材利用はコスト負担にはならず、逆に受注増</li> </ul>

国内でもより首都圏に近い山梨県産材使用の可能性を検討(集成材、土台材など)

- 県内の加工実績、ノウハウなどの課題(集成材に適した強度をもつ木材はあるが加工場がない)
- 加工を県外で行うスキームで準備を進めているが、その場合、山梨県産材として表示ができない
- **県産材利用促進を目的に、県産材認証制度を改正(2010年9月8日) ※県外加工も「県産認証」**

2011年8月より、LVL(梁材)及びI型ジョイスト(2階床組材)を山梨県産材に切り替え決定(国産材化率35%→45%)

## ②その他の活用

- ・マンション 遊具として山梨県木材を活用  
新築分譲マンション(パークハウス木々 津田沼前原)の広場にて遊具(丸太平均台)として活用 2009年11月
- ・当社施設 展示用パネルの額縁として間伐材を活用  
体験ツアーで搬出した間伐材を活用して額縁を製作  
当社施設「丸の内さえずり館」「コミュニケーションルーム」で使用
- ・丸の内ハウス「おあんなって山梨」にて山梨県産材LVLをディスプレイ



間伐材額縁



山梨県産材 LVL(丸の内ハウスサロンルーム展示)

## ■ お客様とのグリーンツーリズム

### ①三菱地所コミュニティ

マンションにお住まいの親子を対象にした農村体験ツアー「空土バスツアー」を2009年から実施。  
情報誌「kadan」や web サイトを通じて、募集や広報活動を展開。



### ②三菱地所ホーム

国土交通省が実施する長期優良住宅先導事業、平成22年度第1回に同社が応募した「サステナブル2×4住宅 国産材化推進プロジェクト」が採択(20棟が補助金対象)。  
対象物件のお客様向けに森林体験ツアー(2010年10月24日、増富地区)を実施。

## ■ 農村×都会のビジネスマッチング

「えがおつなげて」が展開する「関東ツーリズム大学」の丸の内キャンパスを、新丸ビル・東京21Cクラブ内に設置(2010年3月)日本の農村資源と都会のビジネスをマッチングさせ、新たなビジネス創出の可能性を模索する機会を提供。

- |     |       |               |
|-----|-------|---------------|
| 第1回 | 10年7月 | 山形・真室川、埼玉・宮代  |
| 第2回 | 9月    | 群馬・嬬恋、福島・会津坂下 |
| 第3回 | 11月   | 山形・鶴岡、千葉・富津   |
| 第4回 | 2月    | 福島・会津若松       |



以上

2011年6月17日

報道関係各位

三菱地所ホーム株式会社

## 山梨県産材の標準採用について

三菱地所ホーム株式会社（本社：東京都千代田区丸の内 社長 脇 英美）は、山梨県にて出材されるカラマツの間伐材・小径木によって製造されるFSC認証材「LVL（Laminated Veneer Lumber）」と、山梨県認証材「I型ジョイスト」を注文住宅の標準仕様といたします。

### 1. 背景

従来より森林資源の適正利用、国内林業の持続的かつ健全な発展を図るため、トレーサビリティの明確な国産材の利用を推進しており、三菱地所グループが実施している都市と農山村の交流活動「空と土プロジェクト」との連携を通じて、山梨県産材認証製品を実用化することが可能となった。

### 2. 採用箇所と理由

#### ・梁部分 LVL（Laminated Veneer Lumber）

山梨県が所有する森林は森林認証（FSC）を取得しており、流通過程においても昨春秋、三菱地所グループである株式会社三菱地所住宅加工センターがFSC-COC認証を取得したことにより、FSC表示のある梁材を使用することが可能となりました。



#### ・2階床組材 I型ジョイスト

山梨県内から出材されるカラマツを使用し、製造拠点は千葉県となりますが、三菱地所グループと山梨県産材認証センターが山梨県産材の製品認証制度による協定を締結することによって「やまなし県産材」表示のある製品を使用することが可能となりました。



### 3. 使用開始時期

2011年8月1日より

FSC(Forest Stewardship Council、森林管理協議会)のロゴマークは、その製品に使われている木材あるいは木質繊維等が環境・社会・経済の観点から厳しく管理された森林より生産されている事を意味します。その森林はFSCにより規定された原則と基準に基づいて、独立した第三者機関により審査を受け評価されています。

<この件に関するお問い合わせ先>

三菱地所ホーム株式会社 コーポレートスタッフ室

TEL：03-3287-0010 mailto:cseigyo@mjhome.co.jp

URL：<http://www.mitsubishi-home.com>

人を、想う力。街を、想う力。

**三菱地所グループ**

街の力を、  
地球の力に。

特定非営利活動法人  
**えがおつなげて**  
www.npo-egao.net

2011年8月31日

報道関係各位

三菱地所株式会社  
三菱地所ホーム株式会社  
特定非営利活動法人えがおつなげて

## 山梨県、三菱地所、三菱地所ホーム、特定非営利活動法人えがおつなげて 山梨県産材の利用拡大の推進に関する協定締結

三菱地所株式会社、三菱地所ホーム株式会社及び特定非営利活動法人えがおつなげての3者は、山梨県との間で、山梨県産材の利用拡大の推進に関する協定を本日締結しましたのでお知らせします。

本協定は、協定締結者が緊密な連携と協働による普及・啓発活動を推進し、山梨県産材のブランド力を高め、広くその価値を発信することで、山梨県産材の利用拡大を図り、山梨県内の林業の持続的かつ健全な発展に資することを目的として締結の準備を進めてきたものです。

三菱地所グループでは、CSR活動の一環として、「都市と農山村が、お互いに元気になる社会」をめざし、山梨県北杜市で活動を行う特定非営利活動法人「えがおつなげて」と連携し、北杜市増富地区との交流を通して、都市と農山村、それぞれが抱える問題を認識し、ともに支えあう持続可能な社会の実現に向けて都市と農山村をつなぐ『空と土プロジェクト』を2008年度から開始。都市住民を対象にしたさまざまな体験ツアーを実施するほか、農作物・間伐材など地域資源と三菱地所グループの事業との連携プロジェクトをさまざまな活動を通して推進してまいりました。

また、三菱地所グループの注文住宅事業を担う三菱地所ホームでは、森林資源の適正利用、国内林業の持続的かつ健全な発展を図るため、トレーサビリティの明確な国産材の利用を進めてまいりました。そうした中、昨年9月の山梨県産材認証制度改正※により県外で生産加工される製品についても「やまなし県産材」表示を行うことが可能となったことを受け、山梨県産材認証製品の実用化を実現しました。

※ 県産材の素材の使用量が50%を超える木材製品については「県産材認証製品」として認証できることとした。

山梨県産材のブランド力を高め、広くその価値を発信するためには、川上（生産地）から川下（供給・販売）までが連携して普及・PRに取り組むことが必要となります。

今後、協定締結者及び関係者間で山梨県産材利用に関する情報を共有し、ニュースリリース、広報活動等を連携して展開するとともに、ユーザーとなる都市住民を主な対象として、森林施業体験活動、スタディツアー、セミナー、ワークショップ等を連携して実施することで、県産材活用の普及・啓発活動を推進してまいります。

三菱地所グループでは、今後も木材や農作物などの地域資源と企業の経営資源を融合させ、新たな価値を生み出していくことを通じて、地域の活性化に貢献してまいります。

以上

### 【お問い合わせ先】

- 三菱地所株式会社 広報部 電話：03-3287-5200
- 三菱地所ホーム株式会社 コーポレートスタッフ室 電話03-3287-0010
- 特定非営利活動法人えがおつなげて 電話：0551-42-2845